

近年、運輸行政、道路行政をはじめ、まちづくりの計画策定などの場面において、「モビリティ・マネジメント（Mobility Management：MM）」というキーワードを見聞きする機会が増えてきました。本連載では、10回にわたりの「モビリティ・マネジメント」の基本的な考え方やその可能性について紹介します。

S E R I E S
シリーズ

公共交通活性化MM実践講座 第9回

コミュニケーションによる 冬期歩行者交通の安全性向上 地域協働による転倒事故防止対策のススメ

富田 真未 (とみた まみ)

㈱北海道開発技術センター調査研究部研究員

高野 伸栄 (たかの しんえい)

北海道大学大学院工学研究院准教授
ウインターライフ推進協議会会長

札幌の冬～つるつる路面での転倒事故の現状と課題

冬期の歩道や横断歩道上に形成される非常に滑りやすい路面、その名もご存じ“つるつる路面”。札幌市内では、毎年多くの人転倒し、救急搬送されるなど、深刻な社会問題の一つとなっている。特に高齢者などは一度の転倒で大けがになることが多く、外出を控えるようになり、そのまま引きこもってしまうケースも見られる。これまでは、ロードヒーティング等や砂箱の設置、砂まき活動などの対策を進めてきたが、設置・維持等に高いコストを要することから、全てをカバーするには至っていない。よって、今後は地域住民との協働による砂まき活動や、インターネットを介しての情報提供、パンフレット等による啓発活動など、新たな対策・手法を検討していくことが重要であると考え。これら現状を踏まえ、平成21年度に、さっぽろウインターライフ推進協議会（現：ウインターライフ推進協議会）が主体となり、「札幌市内における冬期歩行者転倒防止をめざす社会実験」（国土交通省）を実施した。

全国初!“つるつる路面”の情報提供

地域住民が地域課題について考え、認識すること、雪みちでの転倒による救急搬送者数を減らすことを目的に、札幌発信・全国初の取り組みである“つるつる路面情報提供”の実験を実施した。市内在住者もしくは市内に通勤・通学をする方を対象に、歩道の路面情報を提供いただく“つるつる路面特派員”を募集し、携帯電話で「滑りやすい路面」「滑りにくい路面」の情報を投稿、それらを収集・蓄積し、つるつる路面の発生状況をリアルタイム情報としてネット上で広く一般の方へ情報提供した。



冬の生活道路は雪山で歩行空間が狭まり、車道を歩かざるを得ない場合が多い。車道にはつるつる路面が形成され、ロードヒーティングとの境目には段差ができてしまい危険である。

外出時の歩行経路の参考や注意喚起情報として活用してもらい、また、情報を共有することで、地域住民が自ら関わり持続的に砂まき活動に参加できる環境づくりを目指した。実施期間は、比較的毎年つるつる路面の発生しやすい時期の平成21年12月21日から22年2月5日までとした。より有効的な情報提供内容となるよう、上記期間中に、特派員からの情報を集中して収集する三つの期間を設け、それらを“重点期間”とした。

- ①平成21年12月21日(月)～12月25日(金)
- ②平成22年1月12日(火)～1月17日(日)
- ③平成22年1月29日(金)～2月5日(金)

雪みちお助け隊！“つるつる路面特派員”によるリアルタイム路面情報の収集

特派員には事前に2地点の登録をお願いし、朝夕の1日2回を基本につるつる路面を発見した際、カメラ付き携帯電話で路面状況を報告（メール送信）いただいた。一般応募のボランティアであるにもかかわらず、予想を大きく上回り、市内10区合わせて約170名もの参加となった。投稿は、多い日には全市合計で300件を超えることもあった。

“つるつる路面注意情報”の提供

各特派員からの情報（投稿）は、協議会ホームページにてリアルタイムで情報提供した。収集した“滑りやすい路面”の情報は、路面判断の際に個人差が含ま

れてしまい、そのままでは効果的に活用できないことから、一度、一定期間・複数名の情報を集計し、3段階の滑りレベルを定義し、色で区別して市内を10区に分けてマップで表示した。また、特派員からは“滑らない路面”の情報も提供いただいているため、ホームページユーザーの歩行経路の参考になると考え、それらの情報も地図上に表示（印）した。

“砂まきサポーター”～雪みちでの足下の安全確保～砂まき活動

特派員からの情報をもとに、つるつる路面が多く発生し、雪みちの歩行にあたり注意が必要と想定される場合には、“砂まきサポーター”にメール等でお知らせし、各自で適切なタイミングで砂まき活動をする参考として活用いただいた。

今後の展開

特派員へのアンケート結果では、この情報提供の実施継続に対し、ほとんどの方から次年度も特派員として協力したいとの回答を得、取り組みに対する関心の強さがうかがえた。また、今回の実験期間中には約30件ものメディアで活動が紹介され、市民に対し“つるつる路面”の社会的認知度が広がり、注意喚起効果も広がったと考える。

今後は、高齢者などインターネットをあまり活用しない人々への情報提供手法についての検討も必要であると考え。また、より有効的な情報となるよう特派員増員を目指すなど、今後よりいっそう多くの地域住民が関わりながら転倒事故防止を目指した長く継続できる対策として定着していけるよう活動を続けていきたい。

*

本年度も現在情報提供を実施している。ぜひ、当協議会のホームページ（<http://tsurutsuru.jp>）を閲覧いただき、歩道の滑りを予測する「つるつる予報」の情報と合わせて、冬を快適に過ごすための参考としていただければ幸いである。



“つるつる路面注意情報”提供時の協議会ホームページ「転ばないコツおしえます。」トップページ画面